

東京都と、ガラパゴス諸島の保全機関チャールズ・ダーウィン財団が2019年に調印した連携協定に基づき、今年1月にダーウィン財団の理事長らとともに来日し、小笠原諸島で講演をしたナチュラリストガイドのソフィアさんに、ガイドの道を選んだ経緯、年間25万人の観光客を受け入れるガラパゴス諸島でのナチュラリストガイドの仕事と役割、また立ち上げに携わったナチュラリストガイド協会の活動や今後のガイド業の課題などについて話を伺った。
(写真提供：ソフィア・ダルケア)



ナチュラリストガイド、自然と共に歩んできた道

ガラパゴス諸島の保全と旅行者をつないで30年

シュノーケリングの最中にガラパゴスアシカと出会う



ソフィア・ダルケア・デ・ウィット

ナチュラリストガイド、ガラパゴス国立公園 ナチュラリストガイド協会副代表

収録日：2023年1月25日
収録場所：都内
インタビュアー：赤間亜希
(日本エコツーリズム協会事務局)

「ナチュラリストガイド」という職業に出会う

ガラパゴス諸島でナチュラリストガイドになった経緯を教えてください。

私は南米エクアドルの首都キト市で育ち子供の頃から自然や動物が大好きでした。学生時代に生物学の先生と出会い生物学者の道に興味を湧き、大学で生物学を学びたいと父に相談したのですが、生計を立てられる職業ではないと反対され、観光経営学をスペインで学び1986年10月に帰国しました。就職先を探していた時に、当時ガラパゴス諸島でツアーオペレーターの会社に勤めていた姉から誘われ、1987年1月にガラパゴス諸島を初めて訪れ、その自然に瞬間で魅了されました。どうにかして島に残りたいと思っていた時、現地の保全団体で研究機関のチャールズ・ダーウィン財団が主催するナチュラリストガイド養成コースが開講されると聞き、すぐに応募しました。ガラパゴス諸島について学ぶ3ヶ月間の研修を終え、ガラパゴス国立公園局(以下、国立公園局)が発行する公認ガイドのライセンスを無事取得し、ツアーオペレーター会社にガイドとして雇用されて以来30年以上この仕事を続けています。

今はフリーランスでツアーオペレーター会社やクルーズ船等から直接依頼を受けガイドをしています。ガラパゴスでは観光就航の許可を得たクルーズ船に滞在しながら固有種の動植物が生息する島々を数日かけて巡るツアーが主で、かつ



7泊8日のクルーズ船

ガイドする時の1日のスケジュールを教えてください。

7泊8日のクルーズに乗船しガイドする際は、初日に乗客を空港に迎えに行き、そのままクルーズに出発します。2日目以降は、午前と午後1か所ずつ島に上陸してガイドをしたり、シュノーケリングやカヤックなど海のアクティビティを乗客と楽しんだりします。夕食前にブリーフィングを行い乗客とコミュニケーションをとり、就寝は9時頃です。最終日は下船した後に空港まで見送り、次のクルーズ船での仕事がある場合は、そのまま空港で新しい乗客を迎え、またクルーズに出ることもあります。ハードなスケジュールの中でも、お客様にとっては初めての体験であり多くの感動を持ち帰っていただきたいので、クルーズの最終夜には1週間の楽しい瞬間をまとめた写真のスライドショーをやりませう。音楽をつけて流

すと、喜んでくれます。

自然の言葉を紐解き、旅行者に環境保全のインスピレーションを与える

ナチュラリストガイドの仕事や役割についてどのように考えていますか？

ガラパゴス諸島のナチュラリストガイドはパークレンジャー、親善大使、陸域・海域の保全活動や監視など多様な役割がありますが、私にとってナチュラリストガイドとはガラパゴス諸島の環境保全活動への理解、協力、寄付を旅行者に促すため、島の自然科学や保全に関するルールなどの情報を収集、整理して、彼らにわかりやすく伝える通訳者だと考えています。私たちガイドには常に限られた時間の中で、旅行者の目の前に広がる自然の成り立ちや景色を理解してもらうため、瞬時に情報を「調合」し「組み立てる」技術が求められます。その際

彼らに学びの場を提供し、かつ自然の中で楽しんだり、リラックスする時間をつくりながら素晴らしい体験につなげることが大切です。

近年は居住区がある島を拠点に滞在し周辺の島を小型船で訪れる日帰りのデイツアーに参加する観光客が増えています。クルーズ船に滞在しながら島々を巡るツアーと比べると日帰りのデイツアーの場合、人数は1グループ上限16人で港を午前8時に出発し午後4時に戻るの短くなります。かつ参加者は宿泊先、年齢、国籍、言語、関心などが異なるため、ガイドとして彼らを楽しませながら、学びの機会を提供することは簡単なことではありません。クルーズ船で1週間滞在を共にする乗客と日帰りのデイツアーに集まった観光客の関心や対応は異なり、それに合わせガイド技術を変えていく必要があります。こういう場を経験することがガイド技術のスキルアップにもつながります。

ガラパゴス国立公園のガイド制度について教えてください。

1975年に最初のナチュラリストガイド養成コースが開講し、2022年の時点で約750名が国立公園局の発行する公認ガイドのライセンスを持ち、うち300名が主に稼働していると言われています。公認ガイドのライセンスは2年ごとに更新し、更新時には新たな生物学の知識、観光管理やルールの現状等を学びます。私はナチュラリストガイドの名称でガイドのラ

ガラパゴス国立公園ナチュラリストガイド協会(AGIPA)の活動について教えてください。

現在、ガイドのライセンスはガラパゴス諸島の島民しか取得できませんが、以前は外国人もナチュラリストガイド養成コースを受講し、ガイドのライセンスを取得すれば就労できました。当時は外国人とエクアドル人のガイドが混在し個々に活動していたので、私たちは国籍に関係なく、ガイドとしての関心を共有し交流しながら一つの組織としてまとまることを目的にガラパゴス国立公園ナチュラリストガイド協会(以下AGIPA注1)を

1990年に立ち上げました。会員は100名ですが、主に活動しているのは60名前後です。私たちは自然や生態系に関する情報の共有とガイドング技術の向上に関



ガイドウォーク

心があるので、SNSなどを通じて情報を発信したり、ナチュラリストガイド向けのインタープリテーション講座などを実施しています。また日本政府の援助で寄付されたサンタクルス島(最も人口の多い島)の図書館の運営も、ガイド協会が行っています。ダーウィン財団や国立公園局と連携して研究者を招き、定期的に島民や子供たち向けのセミナーやワークショップなどを図書館で開催しています。図書館の運営はAGIPAの会費や寄付、ボランティアなどの協力を得て実施しています。私たちはAGIPAの活動を、将来のガイドを育てる学校のような役割として考えています。

ありがとうございます。

ソフィア・ダルケア・デ・ウィット エクアドル・キト出身。ガラパゴス国立公園局発行の公認ガイドのライセンスを持ち、ナチュラリストガイド向けのインタープリテーション技術分野のインストラクターも務める。1987年にライセンスを取得して以来、ガラパゴス諸島の保全活動と旅行者をつなぐナチュラリストガイドとして世界中から来る旅行者を案内している。

7泊8日クルーズのスケジュール例

1日目	空港で乗船客を迎え、クルーズに出発
2日目~7日目	朝食 7:00 島に上陸し2時間のガイド① 8:00-10:00 船に戻り休憩 10:00 シュノーケリングの時間② 11:00-12:00 昼食、休憩、次の島に移動 12:00 カヤックの時間③ 14:30-15:30 船に戻り休憩 15:30-16:00 島に上陸し2時間のガイド/ミニレポートで島周辺のガイド④ 16:00-18:00 船に戻り休憩 18:00-19:00 ブリーフィング、振り返りの時間⑤ 19:00-19:30 夕食 19:30-20:00 就寝 21:00
8日目	クルーズを下船、空港に乗船客を送る、終了

※島に上陸できる時間は6:00-18:00と決められている。